



平成22年第112号



子育て施設課
0823-25-3144

予防接種について

麻疹（はしか）や百日咳のような感染症の原因となるウイルスや細菌、または菌が作り出す毒素の力を弱めて予防接種（ワクチン）をつくり、これを体に接種して、その病気に対する抵抗力（免疫）をつくることを予防接種といいます。

お母さんからもらった病気に対する抵抗力（免疫）が弱まり、感染症にかかりやすい、あるいは重症化しやすい年齢であることから、標準的な接種期間の中で、できるだけ早期の接種をお勧めします。

かかりやすい年齢は、百日咳と麻疹0～2歳、水痘1～4歳、風疹1～9歳、おたふくかぜ3～6歳、インフルエンザ5～9歳、日本脳炎5歳以下と40歳以上といわれてきました。予防接種は、かかりやすい年齢になる前に完了しておくことが重要です。

予防接種の種類について

定期予防接種には、三種混合、ポリオ、麻しん風しん混合（MR）、日本脳炎、BCG。

任意予防接種には、インフルエンザ、水痘、おたふくかぜ、肺炎球菌、インフルエンザ菌b型（Hib）、ヒトパピローマウイルス（HPV）、**B型肝炎**などがあります。

予防接種の効果と副反応について

予防接種の効果は非常に高く、麻疹では、接種した場合95%以上の方が免疫を獲得します。しかし、5%の方には効果がありませんし、時間が経つと感染症に罹ってしまうことがあります。多くの場合は、自然感染により、抗体が再上昇しますが、麻疹のように予防接種がある程度普及し自然の流行が見られなくなった病気には、抗体維持のためMRワクチンの2回接種が必要になります。

予防接種の意義は、自然感染における合併症のリスクよりも予防接種による副反応の方が低いことと、予防接種による感染防止または軽減が身体的、社会的に有用であることです。たとえば、麻疹の場合、麻疹ウイルスに罹患すると免疫機能が低下するため、肺炎や中耳炎にかかりやすくなります。また、**脳炎**の合併率は約1,000人に2人で、**亜急性硬化性全脳炎（SSPE）**の発症は48,000人に1人とされています。一方、副反応に関して、麻疹ワクチンはワクチンの中で発熱率の高いワクチンとされていますが、接種後5～14日における38.5度以上の発熱は7.9%、発疹は6%に見られるとされています。また、脳炎、脳症は100万人～150万人に1人で、まれにSSPEの報告があります。

ワクチンの接種を考える際は、このような自然感染におけるリスクと予防接種におけるリスクを有用性と比較し、また、任意予防接種は接種料金も考慮した上で、予防接種を行うか否か決める必要があります。

予防接種に関しては、乳幼児健康診査の際に保健所などで十分情報を収集するとともに、かかりつけ医を決め、接種スケジュールを相談しながら作成しておくことが大切です。

■ 接種対象年齢一覧表（定期予防接種）

()内は標準的な接種期間(望ましい時期)

ワクチン名	出生後	3か月	6か月	9か月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
BCG		■	■																
ポリオ		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
麻しん(M)・風しん(R)混合(MR)					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
麻しん単抗原(注) 風しん単抗原(注)					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ジフテリア(D)百日咳(P)破傷風(T) 三種混合(DPT1期) 二種混合(DT2期)		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
日本脳炎																			

望ましい接種年齢



接種可能な年齢(法定接種対象年齢)



※ 注) 日本脳炎は平成17年5月に予防接種による健康被害が否定できない重症例が発生したため、積極的勧奨を控えておりますが、特に希望される場合は接種することができます。なお、新ワクチンへの切り替え等に伴い、今後の予防接種の受け方について、厚生労働省で検討されています。内容に変更がある場合は、詳細が決定次第、お知らせさせていただきます。(平成22年2月末現在)



用語の解説

定期予防接種(無料)・・・予防接種法により、対象疾病、対象者及び接種期間などが定められている予防接種

任意予防接種(有料)・・・周囲の環境や家族の状況などを考慮して、接種するかどうかを保護者が任意に選択する予防接種

肺炎球菌・・・肺炎の原因となる細菌

インフルエンザ菌b型(Hib)・・・乳幼児の髄膜炎(脳を覆っている髄膜に病原菌が感染し炎症が起きた状態)を起こす原因菌

B型肝炎・・・血液中のB型肝炎ウイルスに感染することで起こり、乳幼児の場合のほとんどが、母親から胎盤を通じた感染か分娩時の産道感染で、慢性肝炎(発熱、だるさ、食欲不振)になると肝臓機能が悪化していく

脳炎・・・ウイルスが直接、脳に感染し脳が炎症を起こすこと

亜急性硬化性全脳炎(SSPE)・・・感染後数年から十数年の潜伏期を経て発病する進行形の難病のこと

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.htm>